



①ファンデーションのツキや持ちをよくするために、メイクアップベース(下地)を顔全体に薄く均一にのせます。小鼻の際や目尻などの赤み、目の下や口角のくすみ、顔全体のシミや跡などをコンシーラーやファンデーションでカバーします。指やアイシャドウブラシの先端を使用してカバーした部分の境目を自然になじませます。顔周りにはほとんどファンデーションがのらないよう、のばしきります。目の周りや口の周りは動きが多くヨレやすいので、ファンデーションやコンシーラーなど化粧品をのせすぎないことがポイントです。スポンジで軽く叩くようにおさえ、余分な油分やファンデーションをとりながらムラをなくし定着させていきましょう。

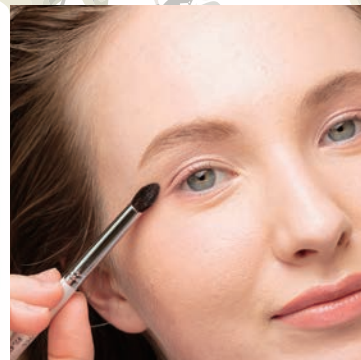
パウダーブラシにフェイスパウダー少量をまんべんなく含ませ、優しくなるようにブラシを動かしてなじませていきます。顔全体に薄くベールをかけるように軽やかにのせていきます。ベースメイクをキープするために、メイクアップミストもおすすめです。顔色のトーンアップをする場合には、コントロールカラーを下地あるいはファンデーションの後、ファンデーションに混ぜて使用するなど、出したい印象に合わせて効果的に使用していきます。



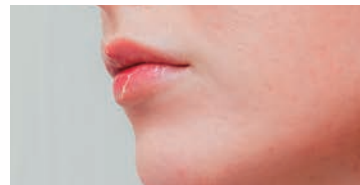
②チークカラーをブラシで優しくなるように少量色味をとります。ティッシュの上でブラシに満遍なくチークカラーがいきわたるようになじませ、口角を上げた時に頬の一番高くなる部分に最初にブラシを置きます。次に、頬骨に沿うように卵型の楕円形をイメージして筆を動かします。出したい色味になるまで同じ行程を繰り返します。一度にたくさん色味をのせすぎないことが上手に仕上がるポイントです。ハイライトは顔全体の凸部分(額・鼻筋・眉骨・目周り・顎先など)、シェイディングは顔の凹部分(顔周り・アイホール・鼻側面・頬骨下など)に、自然になじませます。ハイライトの入れすぎは、顔の白浮みや頬や鼻筋が広がって見え、シェイディングの入れすぎは顔全体が暗く疲れて見えるので気を付けましょう。



③アイシャドウの発色を良くするために、まぶたのくすみをカバーします。アイシャドウブラシの片面に、肌色よりも明るい色味をなでるように優しくとり、ティッシュの上でアイシャドウを穂先になじませます。一番明るくしたい顔の中央に最初に筆を置き、顔全体にアイシャドウをなじませます。次に、アイシャドウブラシのもう一方の面に、お好きなアイシャドウを少量なでるように優しくとり、ティッシュの上でアイシャドウをなじませた後、顔の際にブラシを置き、アイホールへばかしていきます。アイシャドウブラシは、毛先のある側面を寝かせて、なでるようにして使用するとムラができにくく、美しく仕上がります。



④アイブロウブラシにアイブロウベースを少量取り、眉毛の少ない部分を埋めるようにのせます。その後、アイブロウパウダーをブラシに取り眉山から眉尻を描き、次に眉山に向かって眉毛中央〜眉頭まで毛流れに沿うようになじませます。仕上げに無色のフェイスパウダーで固定するとメイク崩れしにくくなります。ペンシルやリキッド、テントや眉毛用のマスカラなどを併用するとより多様な質感表現が可能です。



⑤リップブラシは穂先をのりで固めてあるので、最初に指先で優しくほぐします。気になる場合は一度洗浄しましょう。リップカラーを穂先にたっぷり取り、穂先の中になじませます。筆の側面でリップラインを取った後、中央をぬりつぶしていきます。ティッシュオフで口紅のムラを取った後、リップブラシの先端にグロスなどを取り中央に塗布してなじませます。ツヤができることでふっくらとした唇の印象に仕上がります。

#### ＜お手入れ方法＞

メイクアップの後は、筆のお手入れをしていきましょう。使用後はティッシュで穂先をなでるようにやさしく化粧品を落としていきます。化粧品や油分などで毛先がもたついたら洗浄していきま。穂先を水かぬるま湯に浸し、固形石鹸など洗浄剤で手洗いをします。流水で何度もすすぎ洗いをし、水気を切って陰干しします。パウダーブラシなど、書筆の大筆くらいの径がある筆は、乾くのにかかります。根元からしっかり乾燥させてから使用しましょう。

